

昭和 40 年度日本天文学会春季年会



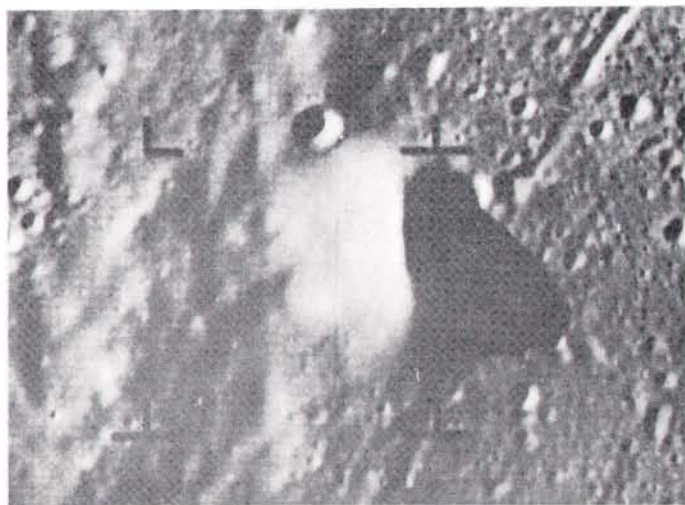
上の写真

5月7日の記念撮影。

下の写真

天体発見賞を一柳理事長より受ける池谷薫氏。

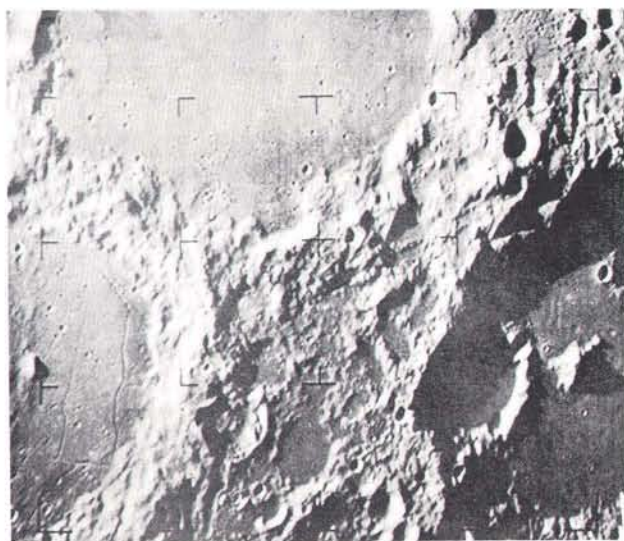




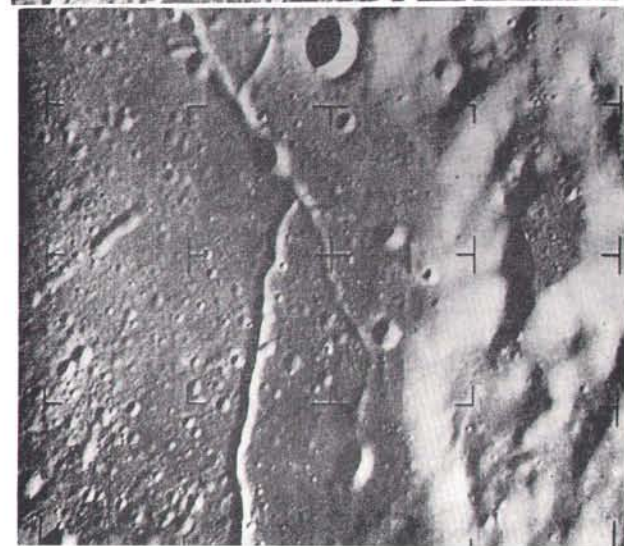
レンジャー9号の写真

レンジャー8号の成功につづいて、3月24日、またレンジャー9号が成功裡に月の表面の近接写真を地上に送って来た。ここでは、そのうち3枚をえらんでお目にかけよう。

1. アルフォンスの中央丘 まわりの土地にくらべて非常にすべすべした肌で白い。噴火が観測されたといわれるが、頂上火口のないことが不思議かがられている。分解能のよい写真では頂上に直径150mていどの火口が見える気がする。



2. 上がプトレメウス、左がアルフォンス、右がアルバテグニウスの火口底 このあたりは三方向の格子構造が入りまじっており、この三火口の間附近にかなり明瞭に見ることができる。なお各火口底に、小火口が連鎖をなしているが、アルフォンスでは右上から左下の構造線、プトレメウスでは左上から右下への構造線、アルバテグニウスでは上下の構造線にそって連鎖し、その模様は3火口でことなり、また（ほかの写真によれば）近接した外洋の部分ともことになっているのは興味深い。



3. アルフォンスの火口底 亀裂のふちは丸みをおびている様に注意。火口壁は白くてすべすべしている。カイパーは緑のないくぼみを“えくぼ火口”（dimple crater）と名付けているが、日本語に“あばたもえくぼ”という言葉があるのは皮肉である。